

追 悼

噫!! 小 山 理 學 士 逝 去 さ る

誰しも、其の情熱的な意氣に於て、最も將來を囑望し、且つ又、本會の最も有力なメンバーであり、指導者あつた小山秋雄理學士は、去る8月11日、32才有爲の春秋を抱いて、惜しくも逝去された。

吾々は、つい先頃、巻頭に記した様に、現代日本の天文學界の最巨匠であると共に、本會の最高の名譽會員であつた新城新藏博士の長逝に、いたく哀悼の意に暮れて居る時、茲に再び突如として小山理學士の逝去の報を受けて、全く其の哀惜は言語に絶ゆるものがある。

兄は、明治40年9月京都に生れ、京都二中を経て三高に入學。此の頃より天文に志を建て、昭和3年京都帝國大學理學部に入學、同6年卒業、同時に特に變光星研究を専攻する事となつて、今や漸く其の研究結實の緒口につかうとされて居たのであつた。其れが今、兄の長逝を聞いて、生前、専攻の方面は勿論の事、天文學全般に關して、幾多學界に寄與する所の多かつた事や、又、一方當會に對しても、献身的な奉仕を敢てされた其の功を思ひ合せて、此處に深く哀悼の辭を呈する。

昭和 13 年 8 月

東 亞 天 文 協 會

新城博士の逝去、續いて現在の會員中最も親しみの多かつた一人としての小山理學士の逝去は誠に哀悼の至りであります。生憎、山本會長が外遊中ではありますが、いづれ歸朝の後には改めて各種の追悼追憶の記事を捧げ度く存じます。ついては會員諸氏に於かれても、其れに關して色々の持合せの材料に依つて、御投稿を頂戴致し度く存じます。其等によつて、いさゝかなりとも故人の靈を慰め得れば、吾人の本懷であると考へます。右追悼に更へて、此處に一言會員諸氏に謹告致す次第であります。

昭和 13 年 8 月

天 界 編 輯 係